

第24回ヘブンアーティスト審査会 審査講評

第24回ヘブンアーティスト審査会の席上でのコメントを紹介します。審査の基準がよく分からない方や、今後自分のどこを改善し、どこを伸ばせばよいか悩んでいる方にとって、これまで見えていなかった視点を示す光明になれば幸いです。

これからヘブンアーティストとして活動される方、審査を受ける予定の方、パフォーマンスアートや音楽の道を志す全てのアーティストに対し、さらに技術や魅力を伸ばしてほしい、また、既存の枠や殻から突き抜けてほしいというメッセージを込めています。

(審査について)

「ヘブンアーティスト審査会」も今回で24回を数え、22年目を迎えました。

今回は、パフォーマンス部門79組、音楽部門63組の合計142組の応募がありました。

一次審査では、応募者が提出した動画を視聴し、魅力や独創性、将来性を感じ、観客を前にした実演を実際に見てみたいと思われるアーティスト（パフォーマンス部門28組、音楽部門12組の合計40組）を一次審査通過者として選定しました。

二次審査（公開審査）は、東京文化会館のキャノピーを会場に、観客の前で約15分の公演を行ってもらい、その様子を審査しました。

(審査講評について)

実演を見た直後に行う審議であがった、審査の基準や評価の考え方の参考になるようなコメントを部門別に紹介します。

■パフォーマンス部門

合格点に達したアーティストの評価できる点

- 日本では案外珍しいタイプのパフォーマンスだが、盛り上げ方が上手で、楽しそうな雰囲気観客が集まってきそう。
- ダンスの技術は申し分ない。長い時間のショーができるかという点や、大道芸としての見せ方については今後に期待。
- 音楽に演目の見せ場をうまく合わせていて、そつがない。トークが初々しいが、衣装と道具の色のコントラストなども良い。
- 衣装、小道具が凝っていて、選曲もサーカスっぽくて良い。技も安定しているが、もう少し動きにマイム性を入れるとさらに良くなる。
- とぼけたキャラクターと技術力の高さのギャップが良い。インバウンド、子ども、すべての人が楽しめる内容。
- レクチャー的な楽しさがあり、演奏技術がしっかりしている。親しみやすい曲の演奏がある点もマニアック過ぎなくて良い。

- 笑顔で楽しそうに演技しており好印象。応援したくなる。
- ボール、ディアボロなど技術レベルが高く、解説ありでわかりやすい。
- 和の手品、大きな傘などの演出が良く、ビジュアルも工夫している。
- 見た目を含めキャラクターが良く、盛り上げる力がある。ミスを踊りでごまかすところも面白い。
- トークが上手く、ほどよく笑いが入っている。アクロバット・ダンスのみでも盛り上げる力がある。
- ビジュアル的に凝っていて、音楽を含め世界観をつくり込んでいる。マジックも上手い。
- コスチュームが作り込まれており、アコーディオンの生演奏ができるところも強み。
- 表情、ポーズにバリエーションがあり、動きもきれい。ユーモアのある演出と小道具使いで、見せ方が上手い。
- スキルがあり、トークも邪魔になっておらず、よくまとまっている。構成や見せ方が、他のジャグラーと違うところも良い。
- トークも癖がなく印象が良い。シガーボックス一本で盛り上がりをつくることができている。
- 衣装の統一感、キャラクターも良い。わかりやすいマジックショーだった。
- コミカルなキャラクターが良い。オリジナリティのある構成で、何が起こるかわからない面白さがある。
- パフォーマンスとしてよくまとまっており、盛り上げていた。特別な技術を使っているわけではないが、最後は決めていた。
- 高さがあるアクロバットはレベルが高く、見せ方にオリジナリティがある。

あと一步届かなかったアーティストに対して改善を期待する点や、合格に達したアーティストでも評価につながらなかった点

- 一輪車の技術が非常に高くオリジナリティもあるが、歌も演奏も音程が外れてしまっていた。
- トークが面白く、盛り上げるのが上手だが、技のレベルは低い。
- オリジナリティのあるコンセプトは良いが、ミッションとのつながりが分かりにくい。
- キャラクターにあった衣装、曲、プログラムなど見せ方は良いが、ミスが多く流れが止まってしまったことが残念だった。
- 多少技が安定していない部分もあるが、今後に期待したい。
- 和の立ち方や姿勢、言葉づかいなどにも気を使ってほしい。
- アクロバット・ダンスの技にオリジナリティがあるとさらに良くなる。
- 距離が離れている観客にも届くよう、マジックのネタに新鮮さや驚きがほしい。
- 少し動きが固いので、マイム、ダンスの勉強をするとさらに良くなる。
- ジャグリングのスキルはあるが、見た目アマチュア感が強いので、衣装にも気を使ったほうが良い。
- アクロバットの技量は高いが、全体の構成については今後に期待。
- アクロバットの技はあるが、全体的に慌ただしい印象。もう少し落ち着いて進行するとも

っと良くなる。

- オリジナリティのある演目は良かったが、緊張からかミスが多く、それをカバーしきれなかったことが残念だった。

■音楽部門

合格点に達したアーティストの評価できる点

- スタイル(ビジュアル)が格好良く、演奏レベルが高い。選曲もわかりやすく良かった。
- ひたむきなスタイルで、メッセージ性が強い詩と演奏だが受け入れやすい。歌が上手く、二人のバランスも面白い。
- 演奏レベルが高く、観客を引き込む力がある。
- 元気いっぱいな演奏とトーク、グループの衣装やカラーコーディネートも良い。
- 一生懸命さが伝わってくる感じで、ヴォーカルも演奏も良かった。

あと一歩届かなかったアーティストに対して改善を期待する点や、合格に達したアーティストでも評価につながらなかった点

- 衣装や楽器の装飾、MC に工夫がある。あまり路上向きではない楽器だが、演奏・歌のレベルを高め、がんばってほしい。
- キャラクターに味があり、民族楽器やリズム感も面白いが、全曲同じようで少し単調に聞こえてしまった。
- 演奏が上手く、一生懸命つくっていることがわかるが、それを観客の方たちにどう伝えていくのが課題。
- バンドとして全体的にでき上がっているが、個々として見ると雑な部分もあった。
- パフォーマンスとしてまとまっており、演出にも工夫が見られるが、もっとテクニカルな部分を前面に出したほうが良い。
- 楽しい雰囲気のパフォーマンスは良かったが、少し表情が固い印象。メンバー間で演奏力に差があるように感じた。
- 歌が上手で表現力がありMC も慣れている。チューニングが合っておらず残念だったが、ミスを取り返そうとする姿勢は良かった。

(全体総括)

第24回公開審査は、連日30℃を超える気温の中開催されました。たくさんの観客が見守る中、今回は若い世代が多数参加し、また、過去の審査講評を咀嚼し自身のパフォーマンスに反映して再挑戦された方もいました。こうしたアーティストの方たちが公開審査会という同じ舞台に立ち、切磋琢磨する機会となることを願いつつ、今回の講評も「あと一歩頑張してほしい」という期待を込めています。

今回残念な結果となった方も、再びチャレンジしてほしいと思います。

最後に、パフォーマンスアートや音楽の道を志す全てのアーティストのさらなる飛躍を期待します。

ヘブンアーティスト審査会

審査委員長 森 直実

審査委員 (パフォーマンス部門) 芦部 玲奈、大久保 砂智子、乗越 たかお
(音楽部門) 梶 奈生子、松村 正人